

[資源管理体制強化実施推進事業(資源管理に必要な情報の提供)]
浅海定線調査 陸奥湾定線の観測結果報告

陸奥湾の12月の海況概況

(2006年12月5,6日 観測)

(実況)(天候不良のため、St.1,2のみ観測)

透明度はSt.1,2ともに10mであった。

水温、塩分は、それぞれ表層(5m)で13.3,12.2、33.21,33.20、中層(20m)で13.0,12.5、33.21,33.20、底層(海底上2m)で13.0,12.2、33.21,33.18であった。

水温の水平差は5m層で1.1のほかは0.5~0.8で、鉛直差はそれぞれ0.4,0.3であった。

塩分の水平差は0.01~0.03で、鉛直差はそれぞれ0.01,0.02であった。

溶存酸素量は、St.2の全観測層で8mg/L未満(飽和度92%)、St.1では底層でも8.2mg/L(飽和度96%)であった。

St.2の40m層~底層にはその上層より低温低塩の水が分布している。

(前回差)(前回11月20,21,27日調査)

水温は、St.1,2とも全観測層で前回より低下し、前回差は-3.4~-1.7、塩分は、前回並または低下(前回差-0.12~+0.09)した。

底層の溶存酸素量はともに前回より増加した(前回差+0.2~+1.0mg/L)。

(平年差)(平年値は1972~2005年の観測値の平均値、St.1,2のみ)

透明度はSt.1,2ともに平年差-4mで平年よりかなり低め。

水温は、St.2の20m層以浅で平年並み(平年差+0.2~+0.5)、St.1の5m層でかなり高め(平年差+1.5)のほかは平年よりやや高め(平年差+0.6~+1.3)であった。

塩分は、St.1で平年よりやや低め(平年差-0.33~-0.34)、St.2でかなり低め(平年差-0.33~-0.38)であった。

(添付資料 観測結果表、水温・塩分の水平分布及び鉛直分布図)

浅海定線調査結果 (陸奥湾)

2006年 12月

観測点	1	2	3	4	5	6	A	B
位置 N	40° 56.5	41° 03.1	41° 03.6	41° 04.1	41° 07.8	40° 5.08	41° 10.6	41° 10.6
E	140° 46.0	140° 45.9	140° 53.4	141° 02.9	140° 59.2	141° 06.5	140° 41.0	140° 43.5
水深(m)	47.0	53.0	52.0	47.0	40.0	39.0	58.0	69.0
月 日	2006.12. 5	2006.12. 6						
時 分	10:33	10:01						
天 気	0	BC						
雲 量	10	7						
気 温(°C)	6.8	4.9						
気 圧(hPa)	1021.0	1029.0						
風向風力	SW5	W5						
波浪階級	3	3						
水 色	6	4						
透 明 度(m)	10.0	10.0						
水 温 ()	0 m	12.90	12.40					
	5 m	13.31	12.22					
	10 m	12.98	12.41					
	20 m	13.00	12.47					
	30 m	13.04	12.47					
	40 m	13.01	12.41					
	50 m							
	底層	13.00	12.23					
塩 分	0 m	33.205	33.200					
	5 m	33.215	33.199					
	10 m	33.205	33.203					
	20 m	33.207	33.199					
	30 m	33.207	33.205					
	40 m	33.210	33.197					
	50 m							
	底層	33.212	33.181					
溶存酸素 (上:mg/L) (下: %)	5 m		7.97					
			91.53					
	20 m	8.49	7.96					
	底層	99.13	91.90					
	8.22	7.98						
	95.98	91.66						
底層水深(m)	45	51	50	45	38	37	56	67

水温(),塩分の水平分布及び鉛直分布図
 (2006年12月5,6観測)

